

景気観測(LOBO)

«2025. 7~9月»

令和7年度 第2四半期

日立商工會議所
情報化委員会

I. 調査概要について

(1) 調査期間並びに調査基準

調査期間	四半期毎に実施、時期としては7, 10, 1, 4月
調査基準	四半期毎の景況感を対前年同期と比較

(2) 調査対象並びに回収状況

業種	調査対象件数	回収件数	回収割合(%)
製造業	25	22	88%
小売業	25	21	84%
建設業	25	21	84%
サービス業	25	20	80%
計	100	84	84%

(3) 調査内容並びに調査方法

調査項目	業界全体の動向と関心事項、売上高の推移と変化要因 採算・仕入/販売単価・従業員数・資金繰りの変化状況
調査方法	FAX・インターネット活用

(4) 調査結果の採用

商工会議所として、景況の判断資料と共に一般会員にも「かいぎしょNEWS」での掲載を中心に景気動向として発表。協力事業所に対しても結果送付。

◎LOBOとは 「CCI(Chamber of Commerce and Industry)-Quick Survey System of Local Business Outlook」(商工会議所早期景気観測)からとった略称。

◎DI値(景気判断指数)について

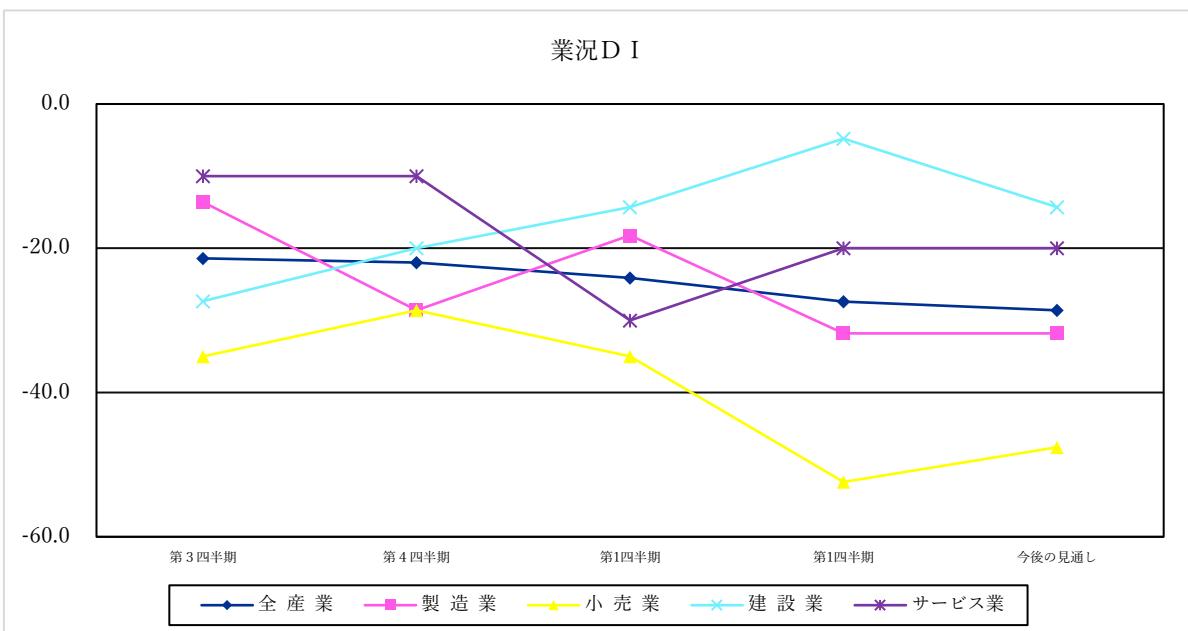
- ・DI値は調査項目についての景況判断状況を表す。(▲で下向き)
- ・強気、弱気等景況感の相対的な広がりを意味する。
- ・DI=(増加・好転・不足等の回答割合)-(減少・悪化・過剰等の回答割合)

II. 業況判断について

- 全産業の業況は、▲27.4と前回調査時(▲24.1)より3.3ポイントの悪化。今後の見通しは▲28.6と今回比1.2ポイントの悪化が見込まれる。
- 製造業では、▲31.8と前回調査時(▲18.2)から13.6ポイントの悪化。今後の見通しは▲31.8で横ばい。
- 小売業では、▲52.4と前回調査時(▲35.0)より17.4ポイントの悪化。今後の見通しは▲47.6と今回比4.8ポイントの改善が見込まれる。
- 建設業では、▲4.8と前回調査時(▲14.3)より9.5ポイントの改善。今後の見通しは▲14.3と今回比9.5ポイントの悪化が見込まれる。
- サービス業では、▲20.0と前回調査時(▲30.0)より10.0ポイントの改善。今後の見通しは▲20.0で横ばい。

(1)業況DIの推移とキーワード

	令和6年度		令和7年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全 産 業	▲ 21.4	▲ 22.0	▲ 24.1	▲ 27.4	▲ 28.6
製 造 業	▲ 13.6	▲ 28.6	▲ 18.2	▲ 31.8	▲ 31.8
小 売 業	▲ 35.0	▲ 28.6	▲ 35.0	▲ 52.4	▲ 47.6
建 設 業	▲ 27.3	▲ 20.0	▲ 14.3	▲ 4.8	▲ 14.3
サ ー ビ ス 業	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 20.0



	キーワード		
	第1位	第2位	第3位
製 造 業	最低賃金上昇	関税の影響	受注量減少
小 売 業	原材料高騰	最低賃金	購買力の低下
建 設 業	技術者不足	公共工事増加	DX化
サ ー ビ ス 業	材料・燃料等高騰	消費者の節約志向	価格転嫁

《全国との比較》

	令和7年度第2四半期		今後の見通し(10月~12月)	
	全国(9月)	日立	全 国	日 立
全 产 業	▲ 18.6	▲ 27.4	▲ 17.3	▲ 28.6
製 造 業	▲ 23.9	▲ 31.8	▲ 18.9	▲ 31.8
小 売 業	▲ 23.6	▲ 52.4	▲ 22.6	▲ 47.6
建 設 業	▲ 10.2	▲ 4.8	▲ 7.7	▲ 14.3
サ ー ビ ス 業	▲ 12.3	▲ 20.0	▲ 14.4	▲ 20.0

(2) 売上高・採算・仕入単価・販売単価・従業員数・資金繰りの推移(DI値)

(売上高)

	令和6年度		令和7年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全 産 業	▲ 2.4	▲ 4.9	▲ 25.3	▲ 23.8	▲ 6.0
製 造 業	9.1	▲ 14.3	▲ 13.6	▲ 27.3	9.1
小 売 業	▲ 5.0	9.5	▲ 25.0	▲ 23.8	▲ 23.8
建 設 業	▲ 13.6	▲ 10.0	▲ 47.6	▲ 28.6	9.5
サービス業	0.0	▲ 5.0	▲ 15.0	▲ 15.0	20.0

(採算)

	令和6年度		令和7年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全 産 業	▲ 23.8	▲ 28.1	▲ 24.1	▲ 34.5	▲ 25.0
製 造 業	▲ 9.1	▲ 23.8	▲ 22.7	▲ 22.7	▲ 4.6
小 売 業	▲ 45.0	▲ 42.9	▲ 30.0	▲ 52.4	▲ 52.4
建 設 業	▲ 22.7	▲ 25.0	▲ 28.6	▲ 33.3	▲ 14.3
サービス業	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 30.0	▲ 30.0

(仕入単価)

	令和6年度		令和7年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全 産 業	▲ 73.8	▲ 76.8	▲ 67.5	▲ 71.4	▲ 52.4
製 造 業	▲ 59.1	▲ 61.9	▲ 59.1	▲ 63.6	▲ 31.8
小 売 業	▲ 80.0	▲ 85.7	▲ 75.0	▲ 71.4	▲ 61.9
建 設 業	▲ 77.3	▲ 80.0	▲ 71.4	▲ 76.2	▲ 61.9
サービス業	▲ 80.0	▲ 80.0	▲ 65.0	▲ 75.0	▲ 55.0

(販売単価)

	令和6年度		令和7年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全 産 業	32.1	42.7	36.1	23.8	29.8
製 造 業	27.3	28.6	40.9	13.6	9.1
小 売 業	35.0	66.7	50.0	38.1	42.9
建 設 業	36.4	45.0	33.3	23.8	19.0
サービス業	30.0	30.0	20.0	20.0	25.0

(従業員数)

	令和6年度		令和7年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全 産 業	23.8	18.3	25.3	28.6	29.8
製 造 業	13.6	4.8	4.6	13.6	13.6
小 売 業	15.0	28.6	20.0	19.0	19.0
建 設 業	45.5	10.0	33.3	42.9	42.9
サービス業	20.0	30.0	27.3	40.0	45.0

(資金繰り)

	令和6年度		令和7年度		
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	今後の見通し (10~12月)
全 産 業	▲ 13.1	▲ 15.9	▲ 18.1	▲ 22.6	▲ 22.6
製 造 業	▲ 4.6	▲ 14.3	▲ 13.6	▲ 18.2	▲ 27.3
小 売 業	▲ 20.0	▲ 23.8	▲ 40.0	▲ 28.6	▲ 38.1
建 設 業	▲ 9.1	▲ 10.0	▲ 4.8	▲ 28.6	▲ 19.0
サービス業	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 5.0

(3)業種別概況

業 種	概 况
製 造 業	<p>業況感・売上高が共に悪化、採算は変わらず。関税・最低賃金上昇の影響が今後どうなるか見通せない様子が伺える。受注量減少の報告も見られ気になる。</p> <p>個別では</p> <p>「米国の関税対応等を踏まえ、政治の混迷が長引かないことを期待するのみです。政治の歪みは即、経済や外交に波及するので懸念されます。」(組合)</p> <p>「工事案件の遅れや集中による出荷の影響」(建築資材製造業)</p> <p>「トップランナー式変圧器の基準改定に伴う主要顧客の受注拡大と受注状況。新規案件による底上げはあるが、大きく好転できるほどの規模ではない。」(電気機械器具製造業)</p> <p>「最低賃金上昇の影響や、取引先からの値下げ要請がみられる。」(輸送用機械器具製造業)</p> <p>「売上げ水準は、年度末まで横這いの見込み。」(輸送用機械器具製造業)</p> <p>「校閲にも AI を導入し、デジタル出版が始まり、短納期に対応している」(印刷業)などの報告があった。</p>

小売業	<p>業況感・売上高回復も、採算は若干悪化。工事減少の報告が見られ、人材・技術者不足は変わらない旨の報告があった。</p> <p>個別では</p> <p>「民間建築工事の引き合いが多いが、従業員不足により受注機会損失が生じている。」(総合建設業)</p> <p>「先行きの見通しが不安定であり、仕入れ価格上昇分を販売価格に転嫁できない。適正価格の確立が必要であり、その共有を求めたい。」(総合建設業)</p> <p>「日立市全体に活気がない。」(一般住宅建築業)</p> <p>「公共・民間工事の減少、人材不足を感じる。」(土木工事業)</p> <p>「スタッフの減少、着工棟数減少による売上の減少。」(設備工事業)</p> <p>などの報告があった。</p>
建設業	<p>業況感は回復しているが、売上高は横ばい、採算は悪化。客単価の減少や、原材料等の高騰により、厳しい状況が続いている報告があった。</p> <p>個別では</p> <p>「運送業の運賃値上げが認められないため、ドライバーの賃金アップが厳しく、転職が増えている。」(物流業)</p> <p>「客足が少なくなっている気がする。特に夜、高いメニュー・お酒が出ない。女性新総裁誕生による景況の変化、物価の動向を注視したい。日製の家電品販売がどうなるのか、多賀駅の改装による影響が気になる。」(飲食業)</p> <p>「若年層の離職・転職による顧客減少」(理容業)</p> <p>などの報告があった。</p>
サービス業	<p>業況感は回復しているが、売上高は横ばい、採算は悪化。客単価の減少や、原材料等の高騰により、厳しい状況が続いている報告があった。</p> <p>個別では</p> <p>「運送業の運賃値上げが認められないため、ドライバーの賃金アップが厳しく、転職が増えている。」(物流業)</p> <p>「客足が少なくなっている気がする。特に夜、高いメニュー・お酒が出ない。女性新総裁誕生による景況の変化、物価の動向を注視したい。日製の家電品販売がどうなるのか、多賀駅の改装による影響が気になる。」(飲食業)</p> <p>「若年層の離職・転職による顧客減少」(理容業)</p> <p>などの報告があった。</p>

